広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
（平成１７年２月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）五類感染症　　平成１７年１月分(平成17年1月3日～1月３０日：４週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	413	0.86	13.03	⬆	12	ヘルパンギーナ	9	0.03	0.04	
2	ＲＳウイルス感染症	105	0.35	ー	⬇	13	麻しん	0	0.00	0.03	
3	咽頭結膜熱	73	0.24	0.09	↘	14	流行性耳下腺炎	335	1.12	0.74	↘
4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	263	0.88	0.82	↘	15	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.04	
5	感染性胃腸炎	5,155	17.18	9.80	↗	16	流行性角結膜炎	57	0.71	1.11	↘
6	水痘	696	2.32	2.17	↘	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	37	0.12	0.15	⬇	18	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
8	伝染性紅斑	31	0.10	0.17	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	16	0.19	0.13	⬇
9	突発性発しん	193	0.64	0.61	↘	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	5	0.02	0.01		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	0	0.00	0.01							

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
⬆	↗	↗	⇨
⬇	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の五類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 188 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～14	15，16	22～25	17～21，26～28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症　　平成17年1月分（1月1日～1月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	59	2.19	2.05	⇗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	4.82	⇗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	19	0.70	0.51	➚	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	42	2.00	2.08	⇓
24	尖圭コンジローマ	13	0.48	0.54	⇗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.30	
25	淋菌感染症	13	0.48	1.01	⇨						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

2　一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

○ 一類感染症　　発生なし
○ 二類感染症　　発生なし
○ 三類感染症　　発生なし
○ 四類感染症　　1件発生【オウム病　1件（広島市保健所管内）】
○ 全数把握五類感染症　　2件発生【アメーバ赤痢　1件（広島市保健所管内），破傷風　1件（福山市保健所管内）】

3　一般情報

○ 今シーズンのインフルエンザ状況

今シーズンの発生状況は，昨シーズンと比較して，２週間程度発生の立ち上がりが遅いが，１月の後半から集団風邪の報告件数は増加傾向にある。２月第６週に入り，広島地域保健所，東広島地域保健所，広島市,呉市,福山市保健所管内でも国が示した注意報の基準の１０（定点医療機関からの定点あたりの件数）を上回り，２月１６日**「インフルエンザ注意報」**の発令をし，県民に注意喚起をするとともに予防対策について広報を実施した。

今シーズンのインフルエンザの型別は県内では広島市でＢ型，府中市でＡ香港型が確認されている。全国的には，Ａ香港型とＢ型の　発生が主流であるが，一部の地域ではＡソ連型が検出されている。

２月１６日現在，集団風邪の発生状況は，学級閉鎖等の学校数（幼稚園を含む）は，４５校で昨年同期と比較して学級閉鎖等数（１１９校），患者数（９,８３４件），定点当りの件数も半分程度であるが，今後，集団風邪の報告件数等を勘案すると患者の増加が懸念される。

今シーズンのインフルエンザ予防ワクチン，抗ウイルス薬は医療機関には十分あり，昨年のような一部の医療機関での不足のような状況にはなっていない。

【インフルエンザの予防対策】

①外出時には，マスクを着用し人ごみはなるべく避ける。
②外出先から帰宅後は，うがい，手洗いを励行する。
③食事は栄養バランスを考えたメニューを心がける。
④インフルエンザウイルスは，乾燥に強いことから，室内の湿度（５０～６０%）を保つことで感染防止対策になる。
⑤インフルエンザにかかったかなと思ったら，安静にし，早めに医療機関で受診しましょう。

○ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎による感染症は平年並に推移しています。原因病原体がノロウイルスによるものがほとんどで，養護老人ホーム，老人福祉施設，知的障害者施設，保育所等で発生し，ほとんどは，軽症で経過し治癒しているが，高齢者によっては既往症があり重篤なケースも報告されている。中には，本疾患が原因とは考えにくいが，施設での死亡者も発生している。特に，介護を要する入所者を抱えている施設等では，吐物やオムツ等の処理が適正に実施されない場合は，施設内感染により患者が次々発生する傾向にあるので，注意が必要である。

【ノロウイルス対策】

① 吐物の処理は，直接素手で行わず，マスクや使い捨て手袋，前掛けをして処理する。
② 吐物の処理後の床等は次亜塩素酸ナトリウム（２００ｐｐｍ）で浸すように床等をふき取る。
③ オムツ等は速やかに閉じて糞等を包み込み飛散しないように取り扱う。
④ 介護後は使い捨て手袋等は衛生的に処理し，施設等を二次汚染しないよう処理する。
⑤ 便所等のドアノブ，通路の手すり等は次亜塩素酸ナトリウムで拭きとり消毒を行う。
⑥ 介護に当っては，健康者から実施し，下痢等の症状のある入所者は最後にする等の配慮が必要である。
⑦ ノロウイルスは，症状が軽く経過するが，少量のウイルス(１００個程度)で二次感染を起こすため，患者が発生した場合は十分な注意が必要である。
⑧ 手洗いは，衛生管理の基本であるので，必要に応じ十分行うことが二次感染防止には重要である。

○ ＲＳウイルス感染症

今月に入り，ＲＳウイルス感染症患者が増加しており，注意が必要である。

ＲＳウイルスは乳幼児の発生が多く，鼻汁，喀痰などが手指，器物を介しての接触感染あるいは飛沫感染により感染する。潜伏機関は，３～５日で，症状は，発熱，鼻汁，咳等が２～３日続き，感染が下気道に及ぶと，咳の増強と，呼気性喘鳴，多呼吸，陥没呼吸などの呼吸困難が出現する。治療は，適切な輸液，気道分泌物の機械的な除去，加湿された酸素の投与など対症療法が基本である。